

MITSUBISHI

三菱ルームエアコン

据付工事説明書

販売店・工事店さま用

冷媒 R410A

室内ユニット：壁掛形BXシリーズ

室外ユニット：システムマルチシリーズ

この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい据付工事が必要です。据付工事前にこの説明書を必ずお読みください。



家庭用エアコンには最大でCO₂ (温暖化ガス) 3,600kg (マルチシステムの場合は10,500kg) に相当するフロン類が封入されています。地球温暖化防止のため、移設・修理・廃棄などにあたってはフロン類の回収が必要です。

安全のために必ず守ること

- ご使用の前に、この「安全のために必ず守ること」をよくお読みの上、据付けてください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 据付工事終了後、⑨「据付時・据付工事後の確認」を必ずチェックし、本説明書をお客さまにお渡しください。お客さまに、「取扱説明書」「保証書」とともに大切に保管していただくように依頼してください。



警告

(誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性があるもの。)

- 据付けは販売店または専門業者に依頼する。
不備があると、火災・感電・ユニットの落下によるケガ・水漏れの原因になります。
- 据付けは、据付工事説明書にしたがって確実にを行う。
据付けに不備があると、火災・感電・ユニットの落下によるケガ・水漏れの原因になります。
- 据付けは、重量に十分耐える所に確実にを行う。
強度の不十分な所に据付けると、ユニットが落下し、ケガの原因になります。
- 可燃性ガスの漏れるおそれがある場所には据付けはしない。
万一ガスが漏れてユニットの周囲にたまると、爆発の原因になります。
- 据付工事部品は、必ず当社付属部品および指定の部品を使用する。
部品に不備があると、火災・感電・ユニットの落下によるケガ・水漏れの原因になります。
- 電気工事は、電気工事士の資格のある方が「電気設備に関する技術基準」・「内線規程」を遵守し、据付工事説明書にしたがって施工し、必ず専用回路を使用する。
電源回路容量不足や施工不備があると、火災・感電の原因になります。
- アース工事を行う。
アース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しない。
アース工事に不備があると、感電の原因になります。
- 電源電線の間接続・延長コードの使用・タコ足配線はしない。
接触不良・絶縁不良・許容電流オーバーなどにより、火災・感電の原因になります。
- 電源電線や内外接続電線はをさんだり、ネジなどで傷つけない。
電源電線や内外接続電線に傷がつくと、火災・感電の原因になります。
- 室内外ユニット間の配線は、所定の内外接続電線を使用して確実に接続し、端子台接続部に内外接続電線の外力が伝わらないように確実に固定する。中間接続は、絶対に行わない。
接続や固定に不備があると、火災の原因になります。
- 内外接続電線は、必ず単線を使用する。より線は絶対使用しない。
電源供給や信号伝達ができず動作不良の原因になります。
- 室内ユニットの電気品カバーを確実に取付ける。
室内ユニットの電気品カバーの取付けに不備があると、ほこり・水などにより、火災・感電の原因になります。
- ポンプダウン作業では、冷媒配管を外す前に圧縮機を停止する。
圧縮機を運転したまま、ストップバルブ開放状態で冷媒配管を外すと、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂・ケガなどの原因になります。
- 据付けは、R410A用に製造された専用のツール・配管部材を使用する。
R410Aは、R22に比べて圧力が約1.6倍高くなります。専用の配管部材を使用しなかったり、据付けに不備があると破裂・ケガの原因になります。
- 据付けや移設の場合は、冷凍サイクル内に指定冷媒 (R410A) 以外のものを混入させない。
空気などを混入すると、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂・ケガなどの原因になります。
- 据付け作業では、圧縮機を運転する前に、確実に冷媒配管を取付ける。
冷媒配管を取付けていない状態で、ストップバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂・ケガなどの原因になります。
- フレアナットは、トルクレンチを用い指定の方法で締付ける。
フレアナットの締付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。
- 作業中に冷媒が漏れた場合は、換気する。
冷媒が火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。
- 据付工事終了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。
冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター・ストーブ・コンロなどの火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。
- 電源電線が破損した場合のコード交換などは専門業者に依頼する。
不備があると、火災、感電などの原因になります。
- 冷媒配管は、JIS H 3300「銅及び銅合金緊目無管」のC1220Tのリン脱酸銅を使用し、配管接続を確実にを行う。
配管接続に不備があると、アース接続が不十分となり感電の原因になります。



注意

(誤った取扱いをしたときに、傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの。)

- 設置場所によっては、漏電ブレーカーを取付ける。
漏電ブレーカーが取付けられていないと、感電の原因になることがあります。
- ドレン・配管工事は、据付工事説明書にしたがって確実にを行う。
ドレン・配管工事に不備があると、ユニットから水が滴下して家財などを濡らし、汚損の原因になることがあります。

1 使用部品 (●据付図を参照して確認してください。)

室内ユニット付属部品			現地で準備していただく部品 (別売部品および一般市販部品)			
① 据付板	1		Ⓐ 内外接続電線 VVFケーブル3芯φ2.0mm	1	Ⓔ 壁穴用スリーブ	1
② ①の固定用ネジ 4×25	5		Ⓑ 冷媒配管 (梱包表示による)	1セット	Ⓕ 配管穴補修部品 バテ、カバー (または石膏等)	1
③ アルカリ乾電池 リモコン用単4形	2		Ⓒ 断熱材 耐熱発泡ポリエチレン 比重0.045 肉厚8mm (液管、ガス管用)	1	Ⓖ 配管固定用バンド	2~5
④ フェルトテープ (室内ユニットの据付けで使用)	1		Ⓓ 配管テープ	1	Ⓖ ①の固定用ネジ	2~5
⑤ リモコン	1		Ⓔ 延長ドレンホースまたは、軟質塩ビホース内径15mm、硬質塩ビ管VP30	1	Ⓖ 冷凍機油	少量

- 据付前に付属部品を確認してください。
- 現地で準備していただく部品の数量は室内ユニット1台当たりの使用数です。別売の延長パイプには上記部品 ④~⑤ 相当が含まれております。
- 市販の銅管を使用する場合、JIS H 3300「銅および銅合金継目無管」のC1220タイプで内部の付着油量は40mg/10m以下、配管肉厚は0.8mmのものを使用してください。

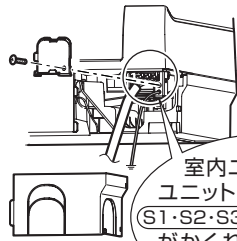
2 据付工事は、以下の点に特に注意してください。

1 配管接続

配管を接続したあと、必ず真空引き・リークテストを行ってください。

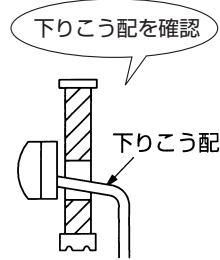


2 内外接続電線の誤配線



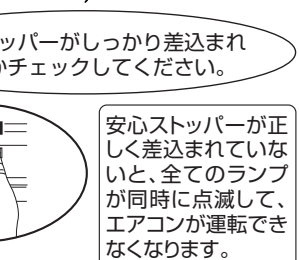
3 ドレン排水

ドレン工事は、ドレンが流れやすいように必ず下りこう配をつけて行ってください。ドレンがスムーズに流れないと、水漏れや異音(ポコポコ)の原因となります。



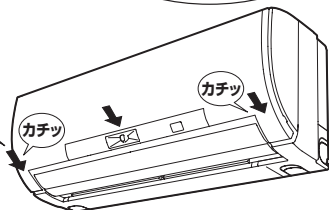
4 異電圧による故障

ブレーカーを入れる前に電源電圧をチェックしてください。



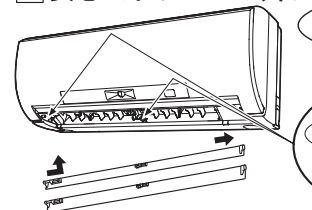
5 丸洗いパネルの閉め忘れ

丸洗いパネルの閉め忘れをチェックしてください。
丸洗いパネルが正しく閉められていないと、正しく運転できません。



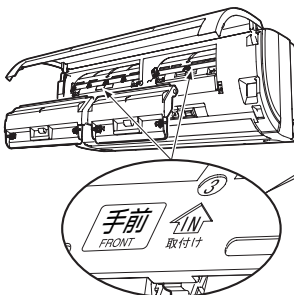
6 安心ストッパーの外れ

安心ストッパーがしっかり差込まれているかチェックしてください。



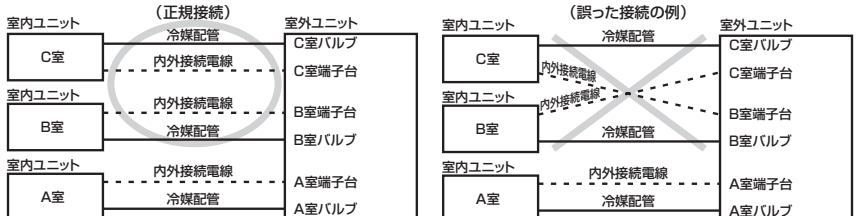
安心ストッパーが正しく差込まれていないと、全てのランプが同時に点滅して、エアコンが運転できなくなります。

7 エアフィルター・ダストボックスの取付け



エアフィルター・ダストボックスが正しく取付けられていないと、フィルターランプが異常点滅します。

8 マルチ機種接続時の誤配管・誤配線



冷媒配管および内外接続電線は、各室内ユニットに対応する室外ユニット側のバルブおよび端子台に確実に接続してください。
冷媒配管と内外接続電線の部屋室名を合わせないで運転した場合、室内ユニットからの水漏れや圧縮機の故障の原因となります。

9 試運転を必ず実施してください。

3 据付時・据付工事後の確認

確認日

確認者名

の中に✓印をいれて確認してください。確認後、この据付工事説明書をお客さまにお渡しください。

- 据付時 据付後
- 電源電圧は規定通りですか？
 - ブレーカー容量は規定通りですか？ (ブレーカー容量は室外ユニットの据付工事説明書をご覧ください。)
 - 内外接続電線は芯線がかくれるまで端子台へ押し込みましたか？
 - 内外接続電線およびアース線は電線固定具で固定しましたか？
 - 電源電線および内外接続電線の中間接続を行っていませんか？
 - アース線の接続は確実ですか？
 - R410A用配管または、指定肉厚の配管を使用しましたか？
 - 配管接続部のリークテストを行いましたか？
 - 真空引きを行いましたか？
 - ストップバルブの弁棒は全開ですか？
 - ドレンホースの接続は確実ですか？
 - 水を流してドレン排水を確認しましたか？
 - 本体裏側配管収納部内の配管はフェルトテープを巻きましたか？
 - 据付場所の強度はエアコンの重量に十分耐える場所で、騒音や振動が増大しないところですか？

- 据付時 据付後
- エアコンの下に家具、カーテンボックスなどがあり、吹出し空気をさえぎっていませんか？
 - 上下および左右風向フラップは確実に取付けられていますか？
 - 丸洗いパネルをしっかりと閉めましたか？
 - エアフィルターは正しくセットされていますか？
 - 試運転は行いましたか？
 - ドレン工事を適切に行い、異音(ポコポコ)が発生しないことを確認しましたか？
 - (安全のために必ず守ること) の ⚠ 警告 ⚠ 注意の項目をチェックしましたか？

お客さまへの説明

●取扱説明書に従って、運転・操作・室内ユニットの清掃方法などを正しく、わかりやすくご説明してください。

4 既設配管を再利用される場合の注意事項

- 配管に残った油を白い布やティッシュで受けた際、灰色系の油になっているときは、モーター焼付きの可能性がります。その場合は、配管洗浄・配管取替え工事を実施してください。
- 配管の肉厚が0.8mmあることを確認してください。(JIS規格の配管)
- フレアは冷媒R410A用の寸法で作り直してください。
- 既設配管が液管φ6.35、ガス管φ12.7(2分・4分)の場合は、異径継手を使用して既設配管をそのまま使用することができます。但し5.6kW(ガス管φ12.7)を除く。

5 ポンプダウンの手順 (強制冷房運転)

移設または廃却時に、環境に配慮して冷媒を大気に出さないため、下記の手順にしたがってポンプダウンを実施してください。

- ①室外ユニットのガス側ストップバルブ(3方弁)のところにサービスポートにマニホールドバルブ(圧力計付)を接続し冷媒圧力が測定できるようにする。
- ②室外ユニットの液側ストップバルブ(2方弁)を全閉する。
- ③室外ユニットのガス側ストップバルブ(3方弁)をあらかじめ全閉近くまで閉める。
【圧力計の指示が0MPa(ゲージ)(0kgf/cm²)に近づいたとき、容易に全閉ができるように準備する。】
- ④強制冷房運転をする。強制冷房運転はブレーカーを切り、約15秒後に再度入れ室内ユニットの応急運転スイッチを1回押す。(30分間連続の冷房運転ができます。)
- ⑤圧力計が0.05~0MPa(ゲージ)(約0.5~0kgf/cm²)でガス側ストップバルブ(3方弁)を全閉する。
- ⑥運転を停止する。運転停止は室内ユニットの応急運転スイッチを2回押す。

警告

- ポンプダウン作業では、冷媒配管を外す前に圧縮機を停止する。圧縮機を運転したまま、ストップバルブ開放状態で冷媒配管を外すと、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂・ケガなどの原因になります。

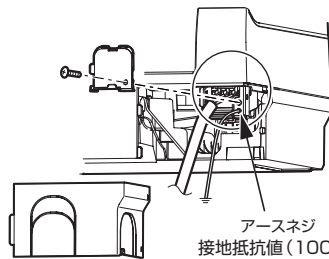
6 アースの取付け このエアコンは必ずアース工事をしてください。

- エアコン回路のアース工事は、「電気設備に関する技術基準」にしたがって電気工事士の資格のある方が実施してください。

接地の基準	電源の条件		エアコンの機種		据付場所	
	交流対地電圧が150V以下の場合	交流対地電圧が150Vを超える場合	単相100Vの機種 単相200V(単相3線式200V電線)の機種	三相200Vの機種	水気のある場所	湿気が多い場所 乾燥した場所
						D種接地工事は法的には除外されていますが安全のため接地工事をしてください。
					漏電ブレーカーを取付け、さらにD種接地工事が必要です。	

〈D種接地工事について〉

- 接地工事は電気工事士の資格のある方が実施してください。
- 接地抵抗値は100Ω以下であることを確かめてください。
(漏電ブレーカーを取付けた場合は500Ω以下であることを確かめてください。)
- 室外ユニットに添付された据付工事説明書もあわせてご覧ください。



アース線(φ1.6mmまたは断面積2mm²以上)
アース線は付属されていません。
(現地手配)

アースネジ
接地抵抗値(100Ω以下)

7 据付場所の選定

お客さまの同意を得て据付けてください。

室内ユニット

- 吹出し空気をさえぎる障害物(カーテンボックス・タンス類)がない所。
- 吹出し口が火災警報器から1.5m以上離れた所。
- 本体を十分ささえられ振動がでない強度のある所。
- 温風(または冷風)が部屋全体に行きわたる所。
(据付高さは、2.3m以下が目安です。)
- 直射日光が当たらない所。
- ドレン排水が容易にできる所。
- テレビ、ラジオより1m以上・テレビのアンテナより3m以上離れた所。(映像の乱れや、雑音が生じることがあります。電波の弱い地域では前記距離を離してもテレビ、ラジオなどにノイズが入る場合があります。その場合はノイズが入らなくなるまで離してください。)
- 蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。
(ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなる場合があります。)
- フィルターの外取しおよび収納操作が可能なる所。



次のような場所でご使用になりますとエアコンの故障の原因または悪臭や有毒ガスが室内に入ってくる場合がありますので、避けてください。

- 機械油が多い所。
- 海浜地区など塩分が多い所。
- 温泉地などの硫化ガスが発生する所。
- その他周囲のふんい気が特殊な所。
- 油の飛まつや油煙がたちこめる所。(調理場や機械工場などではプラスチックが変質破損することがありますので、ご使用は避けてください。)
- 高周波機器、無線機器などがある所。(誤動作します。)
- クレーン車、船舶など移動するものへの設置。

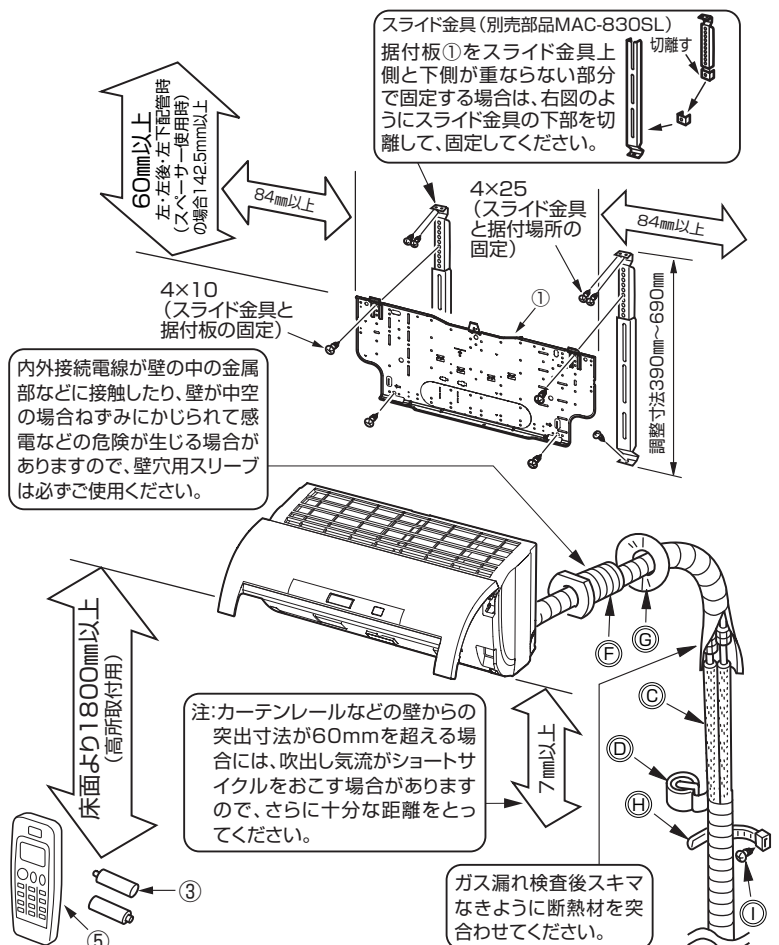
リモコン

- 操作しやすく見やすい所。
- 幼児の手がとどかない所。
- ラジオより1m以上離れた所。
(雑音が生じることがあります。)
- 直射日光が当たらない所。
- ストーブなどの熱の影響をうけない所。
- 部屋に蛍光灯が取り付けられている場合には蛍光灯を点灯させ、リモコンが正常に動作する位置へ取付けてください。

電子式点灯方式の蛍光灯(インバーター蛍光灯など)を付けた部屋では、信号を受けつけない場合があります。

8 据付図

- この室内ユニットは、前パネルを取外さないで据付けることができます。
- この据付図は別売の延長パイプを使用した例です。



室外ユニットの据付図・使用部品については、室外ユニットに添付された据付工事説明書をご覧ください。

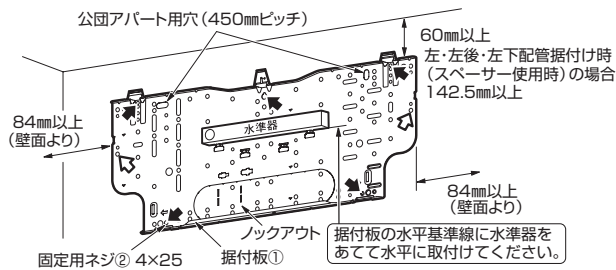
※上記の(←)印寸法は、エアコンの性能を保証するために必要な空間です。後々のサービス、補修なども考慮してできるだけ周囲の空間が大きくとれる場所に設置してください。

室内ユニットの据付手順

9-1 据付板の固定

壁に直付けする場合

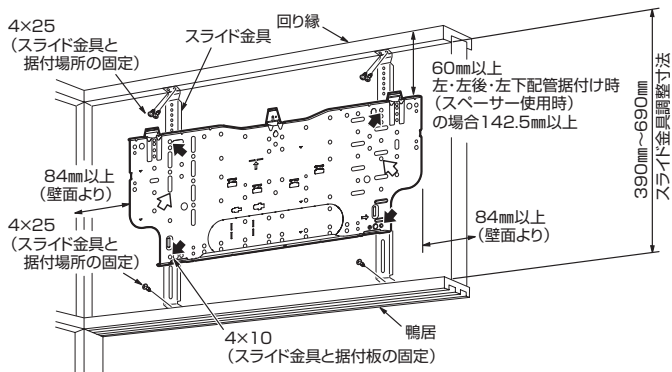
壁内の構造体（間柱など）をさがして強固に取付けてください。
間柱などをさがすのが困難な場合は、市販のボードアンカーなどをご使用ください。
壁が石膏ボードの場合、ボードアンカーは必ず金属製のカサ式のもので壁の厚さに適合したものをご使用ください。



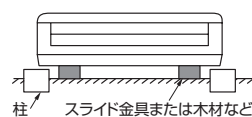
据付板①の微振動を防ぐため、**位置の穴は必ず固定してください。**
各部も可能な限り固定してください。

据付板①のノックアウトを使用する場合は、板金端面全周に傷つき防止用のビニールテープ（現地手配）を貼ってください。
公団アパート用穴使用時は、アンカーボルトの壁面からの飛出し代が15mm以下になるようカットしてください。

回り縁と鴨居に据付ける場合

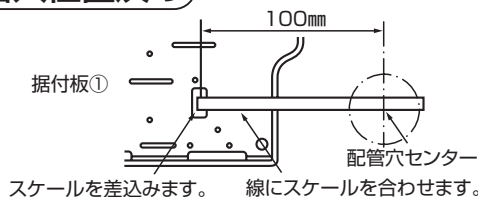


●柱が壁面より出っ張っている部分は、スライド金具（別売部品）または木材など（現地手配）を使用して、室内ユニットが柱に当たらないようにして据付けてください。



9-2 穴あけ

配管穴位置決め



配管穴あけ手順

φ65mmの穴を室外側に約5~7mm下がりぎみにあけます。壁穴用スリーブ⑥をはめ込みます。

配管穴のシール

パテまたは、コーキング材でシールして仕上げます。外気が進入すると、室温検知や運転動作などに悪影響を与えます。

左穴の場合も同様に行います。

9-3 室内ユニットの据付け

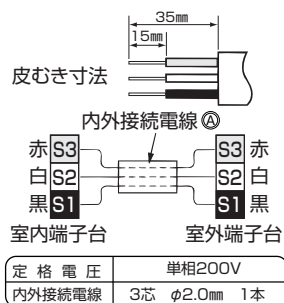
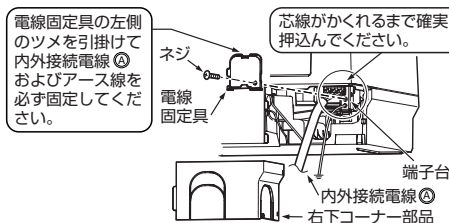
電源

●電源は室外ユニット受電となります。
室外ユニットに添付された据付工事説明書をご覧ください。

後・右・下配管の場合

1) 内外接続電線の接続

前パネルを取外さないで接続できます。
室内ユニットの右下コーナー部品を取外し、電線固定具を取外します。右図のように端末加工をしてから、端子台に差込みます。
●内外接続電線④は芯線がかくれるまで確実に押込んでください。
●内外接続電線④を端子台に接続後、必ず電線固定具で内外接続電線④を固定してください。



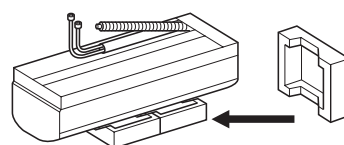
2) 配管の引出し

●冷媒配管、ドレンホースをまとめて配管テープ⑦でテーピングします。配管テープ⑦を根元近くからしっかりと巻いてください。
●ドレンホースが持上らないように注意してください。ドレンホースは抜けるおそれがありますので、強く引張らないでください。



●配管・配線作業

丸洗いパネル傷付き防止のため、背面の作業を行う場合はこん包用の発泡スチロールを図のようにしてご利用ください。



3) 室内ユニットの据付け

- (1) 配管とドレンホースを壁穴用スリーブ⑥に差込みながら、据付板①に室内ユニット上部を引掛けます。
- (2) 室内ユニットを左右に動かし、確実に引掛かっていることを確かめます。
- (3) 室内ユニット下部を据付板①に押し込んで固定します。

9-3

室内ユニットの据付け(つづき)

左・左後・左下配管の場合

1) ドレンホースのつけかえ方法

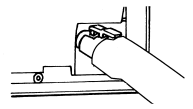
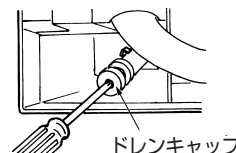
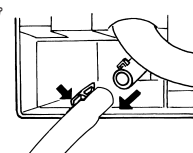
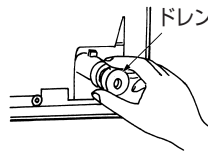
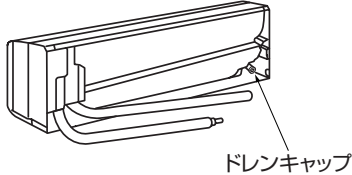
左、左後、左下配管の場合は必ずドレンホースおよびドレンキャップのつけかえを行ってください。つけ忘れおよびつけかえない場合は露たれの原因になります。

① ドレンキャップを抜くとき
先端の凸部をつまんで抜くときとる。

② ドレンホースを抜くとき
ツメの矢印をつまみ、ドレンホースを手前に抜いてください。

③ ドレンキャップを差込む
先端の穴にドライバーなど差込んで、ドレンパンのつけねまで、確実に差込んでください。

④ ドレンホースを差込む
ドレンホースをドレンパンのつけねまで差込んで、ドレンホースのツメがドレンパンの突起に確実に引掛かっていることを確認してください。



室内側ドレン配管

● ドレン配管はドレンが流れやすいように、必ず下りこう配をつけて配管してください。(図1)
図2~図5のようなドレン配管は絶対にしないでください。

● 水を流してドレン排水を確認してください。

● ドレンホースが短い場合は、図6の方法で配管してください。壁埋込み配管の場合は、図7の方法で配管してください。

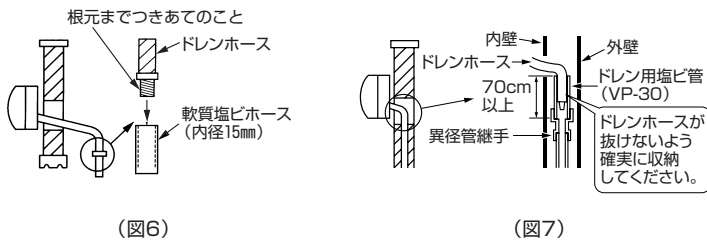
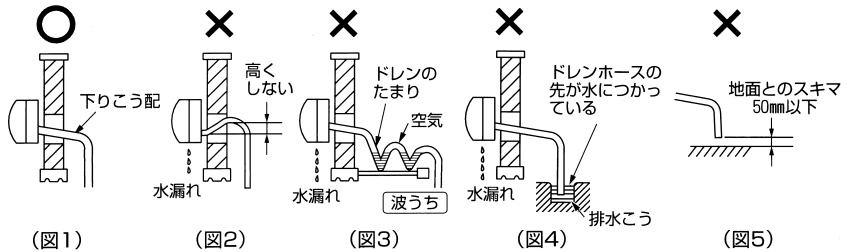
● 高層住宅など、高所に据付ける場合、強風によりドレンがホース内を逆流し、室内ユニットからの水漏れがおきる場合があります。
対応部品を用意しておりますので必要な場合には最寄りの「三菱電機システムサービス」にお問合わせください。

● ドレンホースが室内を通る場合は必ず市販の断熱材を巻いてください。

● 壁埋込み配管などで、ドレンホースの接続を行う場合は、室内ユニットの右下コーナー部品を外して行ってください。

● ドレン配管を、アンモニアガス・イオウ系ガスの発生する下水槽や浄化槽などに直接入れないでください。

● ドレンホースにたるみがあったり、ホース先端が持ち上がったりしていると、ホース内にドレンが溜り、強風の場合、あるいは高気密住宅でレンジフードなど(換気扇)を使用した場合、ドレンがスムーズに流れず、異音(ポコポコ)が発生する場合があります。異音が気になる場合は、「ドレンエア逆流防止部品」(別売部品MAC-850GB)をご使用ください。

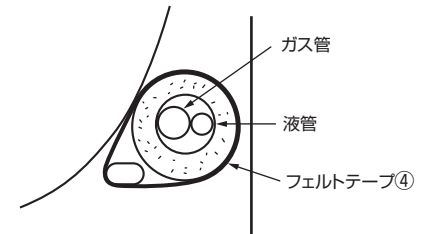
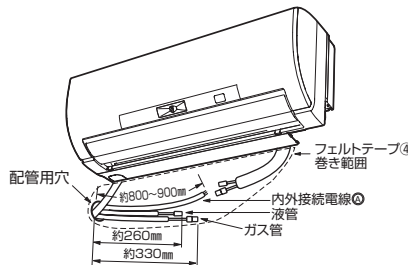
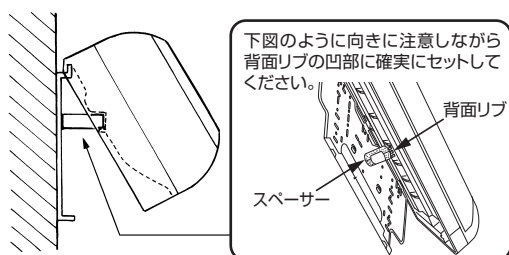
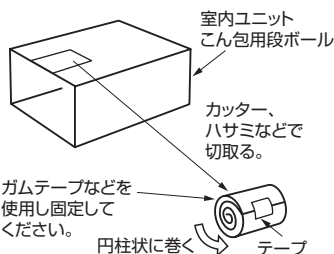


2) 室内ユニットの据付け・配管接続

(1) 据付板①に室内ユニット上部を引掛け、配管収納を考慮して、左側いっばいに寄せます。下図のようにこん包用段ボールの一部をカットして円柱状に巻き、スペーサーとして背面リブに引掛け、室内ユニットを持上げます。

(2) 冷媒配管、ドレンホースを接続します。
● ドレンホースが室内を通る場合は、必ず市販の断熱材を巻いてください。

(3) 室外ユニット据付後石けん水でリークテストを行い、フェルトテープ④で配管を巻き、本体裏側配管収納部に収納します。



● 冷媒配管(延長配管)⑤の引込み長さの目安として、据付板①に記載の本体配管接続部の略図もご覧ください。
● 買替えなどで冷媒配管(延長配管)⑤が届かない場合があります。その場合は「ユニオン付延長継手」(別売部品)をご使用ください。

フェルトテープ④は、室内ユニット裏側を通る配管の右端から左端まで全て必ず巻いてください。

9-3

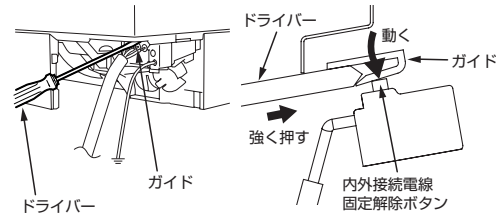
室内ユニットの据付け(つづき)

3) 内外接続電線の接続

- 接続方法詳細は後・右・下配管の内外接続電線の接続による。
- 内外接続電線 ㉔ の引込み長さの目安は図2)-(2)による。

●室内ユニットの内外接続電線の外しかた

下図のように、端子台手前のガイドにドライバーを差込むと、ガイドが動き、内外接続電線固定解除ボタンを押し、内外接続電線を引くと外すことができます。



4) 室内ユニットの据付け

- 室内ユニット下部を据付板①に押込んで固定します。

10

配管工事

配管長・高低差

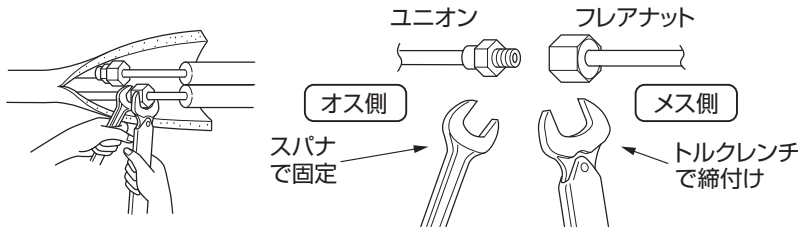
- 配管長・高低差・配管曲げ箇所・追加冷媒量については、室外ユニットに添付された据付工事説明書をご覧ください。

11

配管接続

室内ユニットの接続

- 1) パイプとユニオンのシート面には、冷凍機油 ㉔ を塗布してください。
- 2) 接続は中心を合わせ、フレアナットは最初の3~4回転を手で締めます。
- 3) 室内側ユニオン部の締付けは下表を目安にして必ず2丁スパナでトルクレンチを使用し締付けてください。締過ぎますと、フレア部を破壊します。



パイプ径	締付トルク
φ6.35mm (1/4")	14~18N・m (140~180kgf・cm)
φ9.52mm (3/8")	34~42N・m (340~420kgf・cm)
φ12.7mm (1/2")	49~61N・m (490~610kgf・cm)

注意

締過ぎますと、据付条件によってはナットが割れる場合があります。

室外ユニットの接続

- 1) 室内ユニットと同様にして、室外ユニットのストップバルブ (2方弁、3方弁) の各配管接続口へパイプを接続してください。
- 2) 締付けはトルクレンチを用いて、室内ユニットと同じ締付トルクで行ってください。

冷媒配管

外径・肉厚	液管		ガス管	
	φ6.35mm (1/4") 0.8mm	φ9.52mm (3/8") 0.8mm	φ12.7mm (1/2") 0.8mm	
材料および規格	リン脱酸銅 C1220T JIS H 3300			
断熱材	耐熱発泡ポリエチレン 比重0.045 肉厚8mm ●接続配管は2本分離して1本毎に断熱してください。			

配管肉厚は、0.8mmのものを使用してください。

注意

接続時に配管内部に水・バリ・砂などが入ると、圧縮機の故障ならびに、性能低下につながります。

配管加工時や接続時に水・バリ・砂などが入らないように十分注意すると共に、配管接続後は真空引きを必ず実施してください。

警告

■据付け作業では、圧縮機を運転する前に、確実に冷媒配管を取付ける。

冷媒配管を取付けていない状態で、ストップバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂・ケガなどの原因になります。

12

真空引き・リークテスト

● 室外ユニットに添付された据付工事説明書をご覧ください。

13

内外接続電線の接続

● 室外ユニットに添付された据付工事説明書をご覧ください。

14

断熱とテーピング

- 1) パイプカバーで接続部の配管をおおいます。
- 2) 室外側はバルブ部までしっかり断熱してください。

天井裏や押入れなど高温、多湿な場所へ配管を通す場合には、露付き防止のためさらに市販の断熱材を巻き加えてください。

15

試運転（必ず実施してください）

試運転実施前に室外ユニットに添付された据付工事説明書の「試運転の前に」の項を確認してください。

マルチ機種接続時、試運転は必ず1台ずつ実施してください。
同時に試運転を実施すると、冷媒配管と内外接続電線の接続違いが検出できません。

できるかぎり、お客さま立会いで試運転を実施してください。

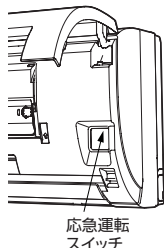
- 1) ブレーカーを「入」にします。電源は定格電圧と合っているか必ず確認してください。
- 2) 応急運転スイッチを押してください。
(30分間は試運転となります。)
(1) 1回押すと冷房試運転を開始します。

この時、約4分から6分後に運転ランプが点滅する場合は内外接続電線④の誤配線を点検してください。

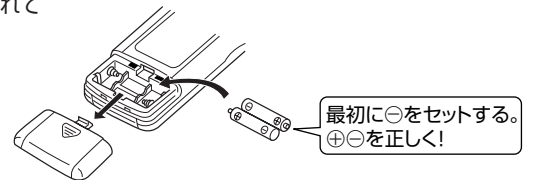
- (2) もう1回押すと暖房試運転を開始します。
- (3) もう1回押すと運転が停止します。
(応急運転スイッチを押すごとに)
(1) → (2) → (3) を繰り返します。

応急運転スイッチを押すと30分間試運転(温度調節がはたらかず連続運転)の状態になり、30分以降は応急運転(冷暖房共設定温度24℃)となります。

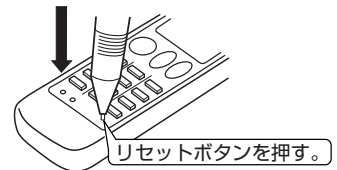
〈据付後には必ず試運転を実施してください。〉
各部の温度や圧力を計測する場合は、起動から10分以降にチェックを行ってください。
起動10分以内は温度や圧力が変動し、正確に計測できない場合があります。



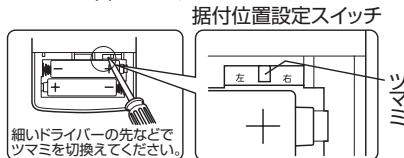
- 3) リモコンの送信を確認してください。
(1) リモコン⑤の裏ボタンを引抜き、乾電池を入れて裏ボタンを取付けます。



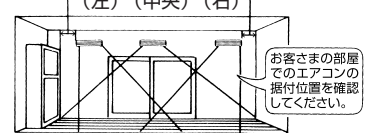
- (2) リセットボタンを押します。
・リセットボタンを押さないと、正しく動作しないことがあります。
・リセットボタンを強く押し過ぎないように注意してください。



- (3) 室内ユニットの据付位置をセットします。
裏ボタンを開け、室内ユニットの据付位置にツマミを合わせます。



※500mm以内のとき ※500mm以内のとき
(左) (中央) (右)



※壁やタンスから500mm以上離れるときは中央に「ツマミ」を合わせます。

- (4) リモコン⑤の入/切ボタンを押して、室内ユニット本体が「ピッ」と鳴るのを確認してください。
もう1度ボタンを押して「切」にしてください。

●一旦、圧縮機が停止しますと、機器保護のため3分間再起動防止機構が作動し3分間は圧縮機が再運転しないようになっています。

リモコン⑤で操作した場合は、リモコン⑤の指令にしたがい、試運転、応急運転がともに解除されます。

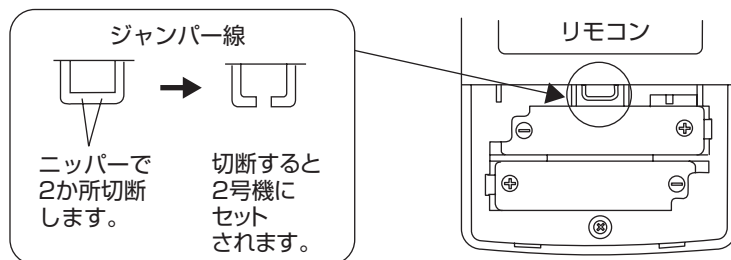
16

同じ部屋に室内ユニットを2台設置する場合

●同じ部屋に室内ユニットを2台設置した場合、1つのリモコンの信号を2台の室内ユニットが同時に受信してしまうことがあります。この誤作動を防止するためにリモコンによる号機切換機能を設定することが可能です。

1) リモコンを2号機に設定します。(出荷状態では全て1号機に設定してあります。)

リモコンは裏ボタンを開けて、乾電池をセットする前に、ジャンパー線をニッパーで切断します。



2) 室内ユニットを2号機に設定します。

(1) ブレーカーを「入」にします。

(2) 2号機に変更したリモコンの信号を、「入/切」ボタンを押して室内ユニットに送信します。この時、1号機に設定したい室内ユニットが、2号機の信号を受信しないようにしてください。

(室内ユニットが1回目のリモコン受信をしたリモコンの設定号機となります。2回目のリモコン受信からは、1回目に受信した号機のリモコンのみ受け取ります。)

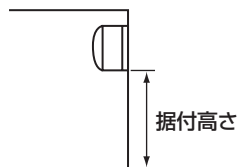
- ・ 停電・ブレーカーを「切」にした場合は、号機設定が失われます。その場合は、再度設定をしてください。
- ・ 一度ブレーカーを「切」にした場合は、30秒以上経ってから、ブレーカーを入れてください。
- ・ 以上の内容は、お客さまに必ずご説明ください。

17

高天井モードの設定

●据付高さにより「通常モード」または「高天井モード」に設置してください。

	通常モード	高天井モード
据付高さ	2m以下	2mを超え2.3m以下



設定方法

- 1) 電源は、定格電圧と合っているか必ず確認してください。
 - 2) ブレーカーを「入」にします。
 - 3) 応急運転スイッチを「ピッ」と鳴るまで長押ししてください。(約5秒間)
- 以上の操作で、「高天井モード」への設定は、完了します。

解除方法

- 応急運転スイッチを「ピッピッ」と鳴るまで長押ししてください。(約5秒間)
- 以上の操作で、「高天井モード」が解除され「通常モード」へ戻ります。

出荷時の設定は通常モードになっています。

18

遠隔操作別売部品の取付け

本機のみでは、遠隔操作はできません。

- 室内制御基板上にHA・JEM-A対応コネクタ(CN104)が搭載されています。このコネクタに、HA・JEM-Aシステムを接続することができます。
- HA・JEM-Aシステムを使用しないで遠隔操作を行う場合は、別途、遠隔制御用インターフェイス、M-NET制御インターフェイスが必要です。
- 詳細な接続方法については、HA・JEM-A対応コネクタに接続する機器、各インターフェイスに付属の説明書をご覧ください。



警告

接続ケーブルは所定の位置に確実に固定してください。
正しく固定されないと、感電・火災・故障の原因となります。